

学校名：兵庫県立千種高等学校

1 学校教育目標

郷土を愛する心と純真素朴な気風を育み、たくましい身体と強い意志をもって自立し、命と人権を大切に
して社会に貢献する、こころ豊かで自立した人づくりをめざす。

2 重点目標

- ①地域になくなくてはならない「信頼される学校」、「魅力ある学校」づくりの推進を図る。
- ②特色ある3類型と特色ある教育課程を編成し、確かな学力と人間性をそなえた生徒の育成を
図るとともに、自己実現と進路目標の達成を図る。
- ③教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。
- ④互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、食育・福祉教育や安全教育の推進を図る。

3 自己評価結果

※評価点は、4点満点

○：良好な評価 ◇課題等

実践目標	実践項目	30年度 評価	昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
1 地域になく てはなら ない「信 頼され る学校 」、「 魅力 ある 学校」 づく りの推 進を 図る。	ホームページの充実を図り、学校の様子を随時発信する。	3.8	3.2	○ブログは頻繁に更新されている。 ◇各部の顧問や各行事に関わった職員が更新する方が良い。 ◇ブログ以外のページの更新をしなければならない。	○園小中高連携一貫教育を通し、幼小中の児童・生徒のよき兄姉として、その範を示している。 ○地域密着した取組、特色ある取組の成果が表れていると感じる。そのことが評価され好転しているのではないかと感じる。 ○園小中高連携一貫教育方法に基づく諸行事は地域の子供達及びその保護者達が高校生達とのふれあいの機会となり、千種高校の内容の理解度アップになっている。
	学校行事、授業参観等を実施し、開かれた学校づくりに努め、その感想や意見を学校経営に役立てる。	3.8	3.1	○連携授業で開かれた学校になっている。 ◇行事の精選が必要である。	
	生徒が地域と関わる機会を増やし、地域社会の発展を願う気持ちを高揚させる。	3.9	3.5	○多くの行事に参加できている。 ◇一部の生徒だけになっているところもある。	
	千種町園小中高連携一貫教育推進事業との連携を深め、まちづくり活動を推進する中で、「行きたい高校」として本校の存在を身近に感じさせる。	3.6	3.3	○連携行事や就業体験で十分実施されている。 ○交流授業や連携行事など連携する機会が多くある。 ○理系進学希望者にも対応できるようになった。	
	行事や授業を通じて「連携型中高一貫教育校」の定着、発展を図る。	3.6	3.2	○行事の連携により、園小中高の職員間の交流も増えている。 ◇よく実施されているが、行事等が多い。 ◇体育祭やマラソン大会など、本年度の反省を生かし、来年度以降に反映させる。	
2 特色ある3 つの類 型と特 色ある 教育課 程を編 成し、 確かな 学力と 人間性 をそな えた生 徒の育 成を 図ると とも に、自 己実現 と進路 目標の 達成を 図る。	挨拶の励行等基本的な生活習慣および品格ある自覚した行動の確立に努めさせる。	3.4	3.5	○来客者に対してはしっかりとあいさつができています。 ◇元気な挨拶ができるよう指導する。 ◇職員から先に挨拶をし、気軽にあいさつができる雰囲気づくりをする。 ◇頭髪や服装の乱れを自ら直すことができるよう指導する。	○一人一人の生徒に丁寧に教員が関わり、入学してから卒業まできめ細やかな指導をしている。 ○次年度以降マラソン大会が楽しみである。 ○生徒達は校内のみならず、校外でもしっかりとあいさつができています。
	教科指導・総合的な学習の時間等を通して、生徒が自己の意見を論理的に明確に表現できるよう指導に努める。	3.4	3.0	○総合的な学習の時間も計画的に実施されるようになった。 ○少人数の授業では表現できている。 ◇学級全体の授業で表現できていない生徒がいる。	
	ふるさと貢献活動、就業体験、ふれあい育児等の体験的活動を多く取り入れ、生徒個々の自己有用感を高める。	3.6	3.1	○それぞれで活動は十分実施されている。 ◇自己有用感については、向上しているが、千種中出身以外の生徒が向上するのに時間がかかる。 ◇ふるさと貢献活動などで特定の生徒にのみ負担が大きくなっている。 ◇ふるさと貢献活動によって、クラブ活動に影響ができてきているところもある。	
	部活動、委員会活動への参加を積極的に推進し、充実した高校生活を支援する。	3.5	3.2	○生徒が一生懸命に部活動や委員会活動に取り組んでいる。 ◇どの部も部員が少ないのが課題である。 ◇委員会活動の時間が確保できていない。	
	進路説明会やLHR・面談等を通じて、主体的な進路選択能力の育成を図る。	3.6	3.1	○一人の生徒に多くの教員が関わり、個に応じた指導ができています。 ◇機会があるたび生徒に進路情報を流すよう心がける。 ◇放課後、会議や諸活動の準備や打合せなどにより進路相談の時間がなかなかつれない。	
	体育的諸活動を通して、心身を錬磨し、将来の社会生活でたくましく生きる体力・精神力を養う。	3.6	3.3	○マラソン大会はよい行事になった。 ◇中高合同体育祭で中学3年生とその保護者に満足感が得られているか。	

	実践目標	実践項目	30年度 評価	昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
12	教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。	各教科において、授業研究など学習指導について工夫・改善を行う。	3.3	3.3	◇同じ教科の職員がすくないので、校内だけでは授業研究が難しい。	○生徒それぞれに応じた指導がなされており、進路指導においては特に丁寧な世話取りをされている。 ○類型ごと目的に沿った丁寧な指導をしていたように思う。 ○小規模学校であるうえ定員割れの状態であるようでは、十分な教職員が望めないのは仕方ないが、先生達の情熱は充分伺える。 ○県下全体からの受入れができるとしても通学可能な範囲に限定されている。学生寮等の検討をすべきである。
13		教科の枠を超えた授業の公開や研修会によって相互に研鑽する。	3.0	2.6	◇授業の研修会はもっとするべきだ。 ◇出張等で時間割変更が多く、計画的に実施することが難しい。 ◇気軽に公開授業ができ、他の教員が参観できる体制作りをする。	
14		地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取り組みを行う。	3.4	3.0	○「アクティブ」の授業や総合的な学習の時間では、地域人材の活用がなされている。 ◇クラブ活動に地域の人材が活用できればよい。	
15		生徒の実態や能力に応じて、個に応じたきめ細かい学習指導を実践する。	3.6	3.4	○少人数の授業が多いため、個に応じた指導がしやすい。	
16		課題や宿題の指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	2.9	2.7	◇課題や宿題は長期休業のときにしかないのは考えなければならない。 ◇なかなか家庭学習の定着は難しい。	
17		基礎学力の定着や資格取得のための補習を実施する。	3.6	2.9	○昨年より資格取得者は増えた。	
18		家庭連絡や家庭訪問を通して、保護者との情報交換や意思の疎通を図る。	3.5	3.2	○家庭訪問は高い効果があると思うので、今後も継続した方がよい。 ◇連絡が取れない家庭が増えている。	
19	生徒の進路希望を達成するために、情報の収集や提供を行い、適切な進路指導を行う。	3.6	3.3	○進路ガイダンスなどが多く実施されている。 ◇千種が交通の便が悪く、生徒数も少ないので、来校してくれる大学や専門学校の関係者が少ない。		
20	互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、食育・福祉教育や安全教育の推進を図る。	マナーや規律、規範意識を高める取り組みを、ホームルーム、生徒会活動等で行う。	3.4	3.4	○生徒会の生徒たちの、朝の立ち番はとともよい。 ◇携帯電話の規則や、服装の規則が少し守れなくなっている。	○情報モラルに関して生徒自身で学んできたことを一人一人が日常生活で実践してもらいたい。 ○日米スマホサミット等良い取組であった。学校でもグループ討議形式で生徒達の意見交換の場をもっと作っても良いと思う。 ○唯一給食のある高校として注目されている。 ○地域的に冬はスキー、夏はゴルフ等恵まれたスポーツ環境と自然の豊かさをアピールして、県下全体から生徒が確保できるようにしたい。(寮が必要) ○近年千種高校の評価が高くなっている。
21		生徒一人ひとりの役割や居場所を、クラスの中や様々な教育活動の場において設定する。	3.4	3.3	○文化祭や体育祭などの学校行事で、よいクラス作りがされている。	
22		生徒の個人面談や、日頃の声かけ指導を積極的に行う。	3.6	3.7	○担任以外の教員もそれぞれ個人面談や声かけを行っている。 ◇多忙で声かけを行う時間が少なくなっている。	
23		防災教育や安全教育を、ホームルームや学校全体で行う。	3.4	3.1	○防災士による防災教育は、生徒達にとってよい体験であった。	
24		人権に関わる課題を知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚の育成に努める。	3.4	3.0	◇SNS関係のトラブルが減らない。	
25		教育活動全般を通じて、情報の活用に伴う情報モラルの育成に努める。	3.8	3.5	◇情報モラルに関して様々な活動をしているので、生徒一人一人にもっと意識させ、トラブルをなくすよう指導する。 ◇一定の成果はあるが、継続が課題である。	
26		キャンパスカウンセラーと連携を密に取るなど、特別な支援を要する生徒や悩みを抱える生徒の支援体制を作る。	3.5	3.2	◇カウンセリングを好まない生徒に、気軽にカウンセリングが受けられるようにする。 ◇カウンセリングを必要とする生徒への働きかけをする。	
27		ホームルーム活動等を通じて、いじめ未然防止に向けた取組を行っている。	3.4	3.2	○多くの職員が、日頃から生徒の変化に気づくように心がけ、異変があればすぐに連絡できるよい体制ができている。 ◇生徒間のからかいや、悪ふざけからトラブルに発展するケースが増えているので、注意が必要である。	
28	自然や人と関わる体験活動、食育等を通じて、心身ともに健康で命を大切にする生徒の育成に努めている。	3.6	3.3	○給食も2年目にはいり、食育の推進もできている。 ◇残食が多くでる日がある。		